

「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」

福島県学校教育審議会答申（平成29年6月16日答申）の概要

2017. 6. 16

背景

- 人口減少・少子化
- 過疎化・高齢化
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
- 生徒の学習ニーズの多様化
- 高等学校の小規模化
- 震災等からの復興・再生

これまでの高校改革の課題を踏まえた**新しい改革計画の策定**の必要性

諮問内容

平成28年
5月26日
諮問

- 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む本県高等学校教育の在り方
- 魅力ある教育活動を推進するための学校規模、学校・学科の配置
- 過疎・中山間地域の教育環境の在り方
- 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

審議の経緯

- ・ これまでに5回の**審議会**と**部会**を開催
- ・ 平成28年6月に県内7地区の中学2年生と保護者への**意識調査**
- ・ 平成28年7月に**高校視察**
- ・ 平成28年12月16日に**中間まとめ**を発表
- ・ 平成29年1月～2月に県内7地区で**教育公聴会**を実施。

県立高等学校改革の基本方針「魅力と活力ある学校づくり」と「生徒にとってよりよい教育環境の提供」に向けて

1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む本県高等学校教育の在り方

- ① 探究型や課題解決型の学習の充実
- ② いのちや心を大切にす教育の推進
- ③ 基礎・基本となる知識・技能の習得と、アクティブラーニングの実践及び適切な学習評価方法による学力向上の取組の推進
- ④ 運動習慣・食習慣改善などの取組の推進
- ⑤ 困難な課題に果敢にチャレンジする協働性や積極性を備えた人づくりの推進
- ⑥ 放射線教育、防災教育、主権者教育の推進
- ⑦ 地域の産業を支える人づくりの推進
- ⑧ ICTを活用した情報活用能力の育成
- ⑨ 医療や福祉に貢献できる人づくりの推進
- ⑩ 地域と共に地域を支える人づくりの推進
- ⑪ 「学びを通じた地域づくり」の支援と、「魅力ある教育活動ができる学校づくり」の推進

2 魅力ある教育活動を推進するための学校の規模、学校・学科の配置

- ① 望ましい学校規模は、1学年4学級以上1学年8学級規模の学校の学級減が必要
- ② 1学年3学級以下の学校は、魅力化を図りながら都市部も含めた統合の推進
- ③ 各学科（普通科・職業系専門学科・総合学科）を地区ごとにバランス良く配置
- ④ 時代の変化に対応した学科の改編と募集定員の学科ごとの適切な比率
- ⑤ 都市部と周辺部の学校の適切な配置
- ⑥ 公立・私立を含めて県内全体として生徒の受け入れを検討

3 過疎・中山間地域の教育環境の在り方

- ① 通学可能な高校が他にないなどの場合、例外的に1学年1学級規模の本校化を検討
- ② 1学級規模の本校化における、教員の配置や魅力ある教育内容の検討
- ③ 継続した市町村の協力・支援と地域との協働による教育環境の向上

4 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

- ① 生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望などに応じた特色ある学校づくりの推進と外部への適切な情報提供
- ② 地域や産業界の人材などを活用した実践的な教育の充実による職業観や勤労観の形成
- ③ 特色ある中高一貫教育の充実
- ④ 多様な学習ニーズへの受け皿としての定時制・通信制高等学校の充実や配置の検討
- ⑤ 高等学校におけるインクルーシブ教育システムの推進
- ⑥ 奨学資金や心のケアなどの学びのセーフティネットの維持
- ⑦ 教員が学び続けることのできる環境づくり
- ⑧ 新学習指導要領に対応した研修や同僚教員の学び合いの機会の充実などによる教員の実践的指導力の向上